

健康スポーツ部会（第 15 回）での主なご意見

＜スポーツ実施率に係る目標設定に当たり考慮すべき点について＞

- 目標の妥当性・達成度の検証といった観点からも、数値目標の設定根拠を示せるようにした方がよいのではないか。
- これまで採用してきた指標を継続しつつ、もう少しセグメントごとに分解して、例えば女性や高齢者、20・30 代のビジネスパーソンといったように対象を分割して目標の設定ができるとういのではないか。
- 地方公共団体の立場から見ると、地方公共団体が施策の中に落とし込みやすい指標・目標設定であることが重要だと思う。
- 障害者スポーツの実施率に係る目標設定について、障害の程度等は人によって異なるので、障害のない方と同じように、強度や実施時間、週の総運動時間等を指標に一律の基準で評価するのは難しいのではないか。
- 障害者については、1 年間全く運動をしないという方が多いので、そこを減らしていくということが 1 つの指標になるのではないか。障害者は自分が運動・スポーツをできるということを十分認識できていない場合があるので、どのようにすれば運動をできるかを分かってもらえれば、その後継続的にスポーツを実施してくれる可能性があると思う。
- 子育て女性、特に未就学児以下の年齢の子供がいる女性については、運動・スポーツ実施率が明らかに低いということが分かっているので、スポーツ実施率向上のための行動計画で定められているカテゴリーを更に細分化して、妊産婦や子育て期といった対象ごとに目標を設定できるとよいのではないか。

＜スポーツ実施率の目標設定に係る国民への伝え方について＞

- 設定された指標やその意図について一般国民に理解してもらうことが重要であると思う。
- 疾病予防や健康といった観点を押し出しすぎるのではなく、スポーツの楽しさといったものも提案する必要があるのではないか。健康のために運動しましょうと言ってもなかなか響かないところがあるので、楽しさという観点を訴求していくことがよいのではないかと思う。

- 健康という言葉は高齢者向けの言葉だと思われるので、中身としては健康について伝えるにしても、外見としては「快適」や「美容」といったような言葉を前面に押し出したほうが全世代の運動促進に繋がりがやすいのではないかと。
- 運動の魅力をアピールするためには、対象の多様性を考慮しながら、対象ごとにどのような目的・目標で運動・スポーツの実施を促進するのかを考え、伝え方を工夫する必要があるのではないかと。
- ビジネスパーソンへのスポーツ実施については、経営者層にはやはり健康経営という言葉が響くので、この言葉は使った方がよいと思う。
- メッツを用いた表現はなかなか一般の人々には伝わりにくいので、もう少し分かりやすい見せ方ができると良い。

<具体的な目標値の設定について>

- スポーツ実施率については、まだ目標達成までは行っていないものの、着実に上昇してきてはいるので、今度の基本計画において、目標値を上げるべきではないかと。ただし、スポーツ実施率については、50%程度から5%上げることと、60%程度から5%上げることでは難しさが違ってくると思うので、そこは留意する必要がある。
- 厚生労働省等が示している強度等の基準には達していない人達も含めて、スポーツを実施するマインドを持って運動している人の規模を幅広く捉える目標値については、今の65%から思い切って上げた上で、健康アウトカムなどを意識したより狭義の目標を、それよりも低い値で立てるという考え方もあるのではないかと。

<スポーツ実施率等に係る調査内容の拡充について>

- スポーツ実施率については、身体活動の定義によって調査結果も大きく変わってくると思うので、指標の設定に係る検討に当たっては、スポーツの実施状況等に関する世論調査の調査項目についても同時に検討する必要があると思う。
- エビデンスの蓄積という観点から、これまでのスポーツ実施率の枠組みはそこまで変更する必要はないのではないかとと思うが、別途、競技として行われるスポーツの実施率や幼児期の運動・スポーツの実施率についても把握する必要があるのではないかとと思う。

- 今後の社会やスポーツのあり方を見据え、スポーツ実施率に係る調査について、eスポーツを含める、対象を現在の18歳から79歳までという枠から拡大する、など調査項目や対象の拡充が必要ではないか。
- 障害者のスポーツ実施率については、施設に入居している方々がインターネットを通してスポーツ実施率に対して回答をすることができないというような場合もあると思うので、そのような人たちの回答を掘り上げる方策の検討が必要ではないか。
- 障害者のスポーツ実施に関し、スポーツ施設のバリアフリー化や障害者スポーツの用具の確保状況等について調査を行うべきではないか。

<スポーツ実施率向上に向けた具体的施策について>

- そもそもスポーツというものの根本には、楽しさや汗を流すことの爽やかさといった点があると思うので、スポーツ庁としては国民にその根本を文化として根付かせていくことが大事なのではないか。
- 日本では、西欧と比べるとスポーツが好きだから行うというよりも健康づくりのために努力してスポーツをしているという印象がある。子供時代から、スポーツを楽しむ環境を整えることが重要ではないか。
- ビジネスパーソンについては、今のコロナ禍の影響でテレワークが一気に浸透したことによって、通勤等による無意識の運動機会が減っている人がいることを踏まえ、そうした人たちがどのようにしたら体を動かすようになるかを色々な視点から考える必要があるのではないか。
- ビジネスパーソンのスポーツ実施促進に当たっては、例えば車社会となっていて一日の歩数がかかり少ない地域のことなど、個別具体のライフスタイルをイメージしながらスポーツ実施に係る提案ができると良い。
- 子育て女性のスポーツ実施率向上に向け、子供を連れて行っても運動できるような環境を総合型地域スポーツクラブや民間のスポーツクラブ等で整備することが大事であると思う。